

ナチュラ

N A T U R A L

発行／長野県知事登録事業者団体 長野県環境測定分析協会 広報部会



写真撮影／酒井今朝重

草原に咲くリンドウ

リンドウは、リンドウ科リンドウ属の多年生植物です。主に日当たりのよい草原に生育し、秋に青紫色の花を上向きに咲かせます。リンドウは、本州、四国、九州に分布する日本の固有種で、長野県でもほぼ全県に分布しています。薬草として古くより用いられ、生薬「竜胆」として知られています。

このリンドウには多くの近縁種があり、リンドウ科の植物では、県内に9属24種4変種が知られています。そのため、リンドウによく似て、葉が粉白を帯びるエゾリンドウやオヤマリンドウ、山里に春を告げるフデリンドウやハルリンドウ、高山植物のミヤマリンドウ、トウヤクリンドウなど、県内では低地から高山まで様々なりンドウを目にすることができます。

さて、県花リンドウですが、その主な生育地である草原（野草地）は、本来、自然にできるものではありません。人が草刈りや火入れをしたり、牛馬を放牧したりすることで、森林化が妨げられ、草原がつくられるのです。そのため、草原は、人の手が入らなくなると、徐々に木々が生えるようになり、リンドウなどの草原を好む植物の生育環境が失われていきます。

現在、県内の草原は各地で消失・縮小しており、オキナグサやキキョウ、コウリンカなど、リンドウとともに草原にみられた植物の多くが、絶滅危惧種とされるようになってきました。そうした中、中信地方の霧ヶ峰草原では、かつて行われていた草原への火入れを再開することにより、草原の再生を図る試みが始められるなど、各地で草原保全の活動も始まっています。草原は、人の手によって維持されてきた環境です。火入れなど草原を活かす文化もまた、リンドウとともに大切にしていかなければなりません。

ナチュラル第4号発刊にあたり



長野県環境測定分析協会
会長 阿部 隆夫

長野県環境測定分析協会だより『ナチュラル』第4号の発刊に当りまして、ひとことご挨拶を申し上げます。

昨年6月に開催されました当協会の定時総会におきまして、梅垣会長の後任としてこの大任を拝命し、新しい理事の皆様とともに活動を開始したわけですが、本当にあつという間の1年でした。この間、技術・広報・総務の3部会の活動も各位のご尽力により活発に展開されて参りました。

継続事業であります、信州環境フェアへの参加、天竜川水系健康診断への分析協力、日本環境測定分析協会関東支部主催による環境セミナーでの研究発表などに加えて、いくつもの新しい事業へ

の取り組みも開始されました。特に、会員事業所のご協力により開始された酸性雨の調査は、中国の目覚ましい経済発展を考えますと、今後データの集積が進むにつれて興味深いものになっていくのではないかと期待いたしております。また新しく賛助会員制を導入しまして、募集をさせていただいたところ6事業所の皆様が賛助会員になってくださいました。

昨年の石綿問題を例に引くまでもなく、7月からE.U内を流通する電気製品に適用されます『RoHS指令』への対応、残留農薬に関するポジティブリスト制導入など、調査・分析技術に対する社会的ニーズは益々大きくなる

と予想される中で、賛助会員の皆様のご参加は大変心強いことであり、ご入会を心より歓迎し、また感謝申し上げます。

最後に、ナチュラルの読者の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

所長に就任して



長野県環境保全研究所
所長 荒井 英彦

環境測定分析協会の皆様、こんにちは。竹松前所長の後任としてこの4月に環境保全研究所長となりました荒井英彦です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

時代の変化に従って当研究所の業務内容も拡大してまいりまして、ダイオキシン、アスベストといった課題への対応は多忙を極めております。特にアスベストにつきましては、昨年中途において急遽分析機器を導入し、検査体制を整備してまいりました。本年度は環境モニタリング、事業者周辺の水遊調査、吹き付け材等の含有量調査を中心に業務を進めております。

また、衛生サイドでも今年5月29日から食品における残留農薬に対する

規制「ポジティブリスト制度」がスタートいたします。799項目と大変幅広い品目が対象となることから現在、検査方法の確認や体制整備を図っているところであります。

この制度は、食の安全を守ることは勿論であります。この市場に提供されている本県の農・畜産物に対する信頼を確保し、本県の農業振興に繋がる総合的な体制づくりが求められております。流通段階での検査が中心となりますが、これを契機に、生産・集荷段階での自主的な検査が促進されていくものと見込まれます。

旧衛生公害研究所と自然保護研究所を統合して発足した当研究所も3年目を迎えますが、県民の皆様のご信頼にお応えできよう、検査技術の向上や精度管理の充実に一層努めてまいりたいと考えております。

今後更に高度化、多様化が見込まれる環境保全

に対する取組は、行政機関と民間部門が協力、補完し合いながら進めていかなければ解決できない問題ばかりであります。貴協会の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



技術部会活動報告

技術部会長 滝澤 光

日頃より技術部会の活動にはご協力をいただき感謝申し上げます。平成17年度の活動報告をいたしますので技術部会の活動をご理解していただけたら幸いです。

年度活動については、年数回技術部会を開催し、前年度からの継続事業や単年度事業を技術部会執行委員8名により協議、検討しながら進めています。

具体的事業として

1. 精度管理調査への参加

長野県薬務課、長野県環境保全研究所主催による精度管理調査への参加を呼びかけました。参加機関の把握、不参加の理由を掌握し、できるだけ多くの機関の参加を望むとしました。結果は薬務課、環境保全研究所でとりまとめられた「精度管理結果報告会」にて詳細に報告され、参加機関は各自で状況を把握していただいています。

17年度は10機関がそれぞれ天竜川本流1地点ずつ9月1日の12時・斉採水の水质を測定しました。検査項目はpH、BOD、NO₃-N、PO₄-P、大腸菌数、電気伝導率です。

項目	物質	参加機関数	棄却数	桁間違い	平均値	平均値範囲	CV値 %	Zスコア
菌液	細菌数	5	0	0	4.7×10 ⁵	4.7×10 ⁵ ~ 5.1×10 ⁵	0.2~1.1	-0.83~0.67
模擬医薬品	アセトアミノフェン	4	0	0	25.0	24.3~25.4	0.5~1.7	-1.79~0.95
	カドミウム	25	1	2	0.022	0.016~0.030	0.0~6.0	-1.78~2.24
模擬排水	鉛	26	2	1	0.047	0.024~0.058	0.0~13.2	-2.91~1.47
	全シアン	27	2	2	0.51	0.41~0.58	0.0~5.9	-3.02~2.25

参加機関数：協会参加機関数
 棄却数：協会参加機関で棄却された機関数
 桁間違い：協会参加機関で指摘を受けた機関数
 平均値：全参加機関のうち Grabbs の方法により危険率5%で棄却した後の平均値
 平均値範囲：協会参加機関で Grabbs の方法により危険率5%で棄却された後の各機関の平均値範囲
 CV値：協会参加機関で Grabbs の方法により危険率5%で棄却された後の各機関のCV値範囲
 Zスコア：協会参加機関で Grabbs の方法により危険率5%で棄却した後の各機関のZスコア範囲

財団で、天竜川水系の水質の実態を把握するため小学生から、企業、団体に呼びかけられて、毎年実施されています。当協会が環境測定分析を業務の一環として活動しているため、測定分析技術を生かすべく希望機関が参加しています。なお協会の機関は分析専門の立場から公定法による機器分析を託されています。17年度は10機関がそれぞれ天竜川本流1地点ずつ9月1日の12時・斉採水の水质を測定しました。検査項目はpH、BOD、NO₃-N、PO₄-P、大腸菌数、電気伝導率です。

測定結果についてはバックテストの結果とともに長野県環境測定分析協会測定の名のもとに「諏訪湖・天竜川水系健康診断結果報告書」の中でまとめられています。

3. 技術研修会・交流会

技術研修会を年1回開催しています。今まで実施してきたものは環境分析機関見学、分析機器メーカーによる分析及び分析機器説明会、講演・講習会であり、17年度は2月17日に信州大学山山水環境教育センター見学と同センター所長の花里先生に「諏訪湖の浄化対策の取り組みについて」と題して講演をしていただきました。

17年度から賛助会員となりました卸6社を含め24機関31名の参加となりました。

4. 研究発表

日本環境測定分析協会関東支部に属していることにより、支部セミナーにおいて研究発表が呼びかけられています。17年度は(株)環境測定分析センター(株)信濃公害研究所(株)長野県薬剤師会検査センターの3機関に発表していただきましたが、18年度からは班分けによる順番制にて発表していただくこととなりました。発表場所は支部セミナー、県環境科学研究所発表会を主な目標とし、研究助成金も用意することになりました。

5. 雨水・斉水質調査

研究発表と連動しますが、技術部会では協会全機関が参加。協力のもとに研究できるものとして雨水・斉水質調査を実施することといたしました。

18年4月と5月に県下・斉に1降雨について雨水を測定することより、県下各地の水質を比較して状況を把握しようとするものです。分析項目は酸性雨調査で必要とされているpH、Na⁺、K⁺、Ca²⁺、Mg²⁺、NH₄⁺、SO₄²⁻、NO₃⁻、Cl⁻とし、実施中です。

平成17年度事業報告

信州環境フェアに参加

夏の恒例行事となった長野市若里のビッグハットで開催される信州環境フェアに、今回も長野県環境測定分析協会は、参加出展しました。

7月9日(土)～7月10日(日)の二日間「みんなで止めよう温暖化」地球のためにできること」をテーマに開催されたフェアには、これまでの最高となる17731人の方が来場しました。

長野県環境測定分析協会のブースにも沢山の方が訪れとても盛況でした。出展内容は、五感に訴えて来場者参加型にするの趣旨で、



2005年6月1日に外来生物の飼育・販売などの規制をする法律「外来生物法」が施行されたのにちなみ、外来種あてゲームを実施しました。植物の中から「タンポポ・アレチウリ」魚の中から「オオクチバス」動物の中から「アライグマ」を当てるゲームです。全問正解者には、認定証と景品を差し上げました。もうひとつは、前回好評だったので臭い官能試験を再度出展しました。全問正解者には、特級かおりエコ判定士、不正解が二つ以内の人には、一級かおりエコ判定士の認定証と景品を差し上げました。家族連れ特に子供たちに大人気でした。広報活動のよい機会ですので引き続き参加出展していきたいと思っております。

アスベスト・石綿の定義

石綿（いしわた）アスベストは、いろいろな繊維状鉱物のうち工業的に使用されてきた鉱物群の総称であり、物理的に非常に優れた特性を持ち、また安価であることから、各方面で多量に使用されてきた。

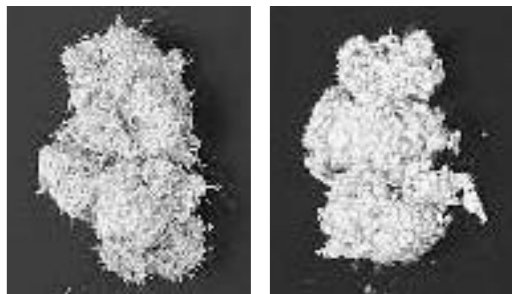
昨年制定された石綿障害予防規則及びその施行通達では「石綿の種類には、アクリノライト、アモサイト（茶石綿）、アンソファイト、クリソタイル（白石綿）、クロシドライト（青石綿）、及びトレモライトがある」とし、「石綿等とは、すべての種類の石綿及びそれらをその重量の1%を越えて含有するものである」と定義している。また、昨年批准された

石綿の種類

ILOの石綿条約では、「石綿とは、蛇紋岩造岩鉱物に属す繊維状けい酸塩鉱物であるクリソタイル及び角閃石族造岩鉱物に属す繊維状けい酸塩鉱物であるアクリノライト、アモサイト、アンソファイト、クロシドライト、あるいはそれらの一つ以上を含む混合物をいう」とし、クリソタイルはほぼ全てが繊維状をしますが、角閃石族に属する鉱物には繊維状を示さないものがある。また、「顕微鏡レベルで長さ幅の比が3以上のアスペクト比を持つ繊維状のもの」を加えて石綿を定義している。

前項の「定義」とおり、石綿は、蛇紋石族石綿と角閃石族石綿に大別され、その中に6種類の石綿が属している。蛇紋石族はクリソタイル1種類のみで、角閃石族はアモサイト、クロシドライト、アンソファイト、トレモライト、アクリノライトの5種類である。

今まで世界で使用されてきた石綿の9割以上は、蛇紋石族のクリソタイルで、主な化学成分は二酸化ケイ素と酸化マグネシウムからなる含水塩鉱物である。角閃石族は、酸化マグネシウム、酸化鉄、酸化マグネシウム、酸化ナトリウム等を含む含水塩鉱物である。



左はアモサイト、右はクロシドライト。混同しがちだがクロシドライトは石綿を含有していない。

石綿の物性

石綿が産業界貴重材料として盛んに使われている理由は、次のような優れた性質を一種の物質が全てを兼ね備えていたからと言える。まず、織物として織ることができる（紡織性）、引張り強度が極めて大きく（高抗張性）、燃えないで高温に耐え（不燃・耐熱性）、柔軟でかつ摩擦に耐え（耐摩耗性）、酸・アルカリ等の薬品に侵されにくく（耐薬品性）、腐らないで変化しにくく（耐腐食性）、熱・電気を通しにくく（絶縁性）、表面積が大きいので他の物質との密着性に優れており（親和性）、価格が安い（経済性）等の多くの優れた性質を有するため建材、工業製品、民生品として使用されている。

品として使用されている。そのため石綿製品は、自動車分野、薬品等を製造する化学設備分野、建設設備等を製造する産業機械分野、電車、船舶等の陸・海運の輸送分野、ビル等の建築業分野、ボイラー等の民生用分野と多くの業種で使用されている。

石綿の産出と使用量

石綿の世界の総生産量は、二〇〇四年で一億八千万トンに達し、二〇〇二年の産出量は二〇五百万トンである。現在の国別の産出割合は、ロシア37%、中国18%、カナダ17%程度になっている。日本の総輸入量は、二〇〇四年一〇〇万トンに達し、日本は世界の生産量の6%を消費したことになる。日本輸入量は、昭和三〇年代後半より増大し、昭和四九年の三万五百万トンを超え、年間三〇万トン前後で推移してきたが、平成一六年の輸入量は約八千トン、製造・輸入・譲渡・提供または使用のほとんどが禁止となった平成一七年は数十トンの見通しである。これまでに輸入された石綿の大半は建築資材の原料として使用されたと思われる。

特集



アスベストを知ろう

クリソタイル石綿鉱山

「アスベスト(石綿)」は数々の優れた性質と価格の低さから、昭和の時代を中心にたいへん貴重な原材料として、建築資材をはじめ、さまざまな工業製品に加工され、暮らしにとり入れられてきました。しかし近年、アスベストによる健康被害が大きくクローズアップされ、たいへん問題になっています。この特集では、アスベストとはいったいどんな物なのかを中心に専門的な立場から解説しています。みなさまのご参考になれば幸いです。

(寄稿) (社)長野県労働基準協会連合会上田測定所 萩原 幸男]

石綿の人体への有害性

石綿にさらされる業務に従事していた労働者については、将来、石綿肺、原発性肺がん、中皮腫などの健康被害が生じるおそれがある。特に中皮腫については、石綿との因果関係が強く指摘されている。また、原発性肺がん、中皮腫とも石綿にさらされてから期間が非常に長く、原発性肺がんが15〜40年中皮腫で20〜50年との特徴がある。石綿関連疾患には、この他に良性石綿胸水、びまん性胸膜肥厚がある。

石綿の測定

(1) 浮遊粉じん中の石綿濃度測定の種類
種々の環境中に浮遊する石綿の測定には次のよう



クロシドライト位相差顕微鏡写真

- ①労働環境に係る測定
 - ・労働安全衛生法に基づく作業環境測定
 - ・個人ばく露濃度測定
 - ・抑制濃度測定
 - ・集じん装置性能測定
- ②一般環境及び室内環境に係る測定
 - ・事業所の敷地境界の測定（敷地境界線の東西南北+近傍点）
 - ・一般大気環境中の測定（ア

アスベストモニタリングマニュアルによる

- ・室内環境等における石綿粉じん濃度の測定（日本石綿協会）
- ③建築物の解体・改修工事における測定

◎建築物の解体等工事における「石綿粉じんばく露防止マニュアル」に基づく測定

- ・レベル1の作業作業環境測定基準に準じる
- ・レベル2・3の屋内作業場作業環境測定基準に準じる
- ・レベル2・3の屋外測定
- ・屋外測定ガイドラインによる
- ・換気及び隔離の効果の確認に係る測定

◎国土交通省の「建築改修工事監理指針」による測定

〈測定点数〉

- ・処理作業室ごとの面積が50㎡以下までは2点
- ・処理作業室ごとの面積が300㎡以下までは3点
- ・300㎡を越える場合100㎡ごとに1点

④石綿濃度測定の問題点

これらの石綿濃度測定法については、種々の問題点が指摘されているが、その一番は、位相差顕微鏡で見える、決められた長さ幅の繊維状物質全てを石綿として計数していることにある。これは、石綿濃度測定の前提として、石綿取扱い作業が存在しているかあるいは石綿製品の製造工場周辺が測定対象であり、石綿以外の繊維状物質が混在しても安全側での管理となるためであると考えられるが、より大きな要因としては、石綿繊維を特定して計数できる手法が開発されていかなかったことである。このため、現在石綿と石綿以外の繊維状物質を識別して計数する、分散染色法が開発され、従来の手法にこの分散染色法を加えるJISの改定作業が進められており、近い将来、浮遊石綿濃度の測定方法は分散染色法に移行していくものと思われる。

(2) 石綿含有製品中の含有率測定

石綿含有製品中の含有率測定については、現在厚生労働省が通達で示す2つの方法とJISの方法とがある。
①平成8年3月29日基発第188号「建築物の耐火等吹付け材の石綿含有率の測定方法」
②平成17年6月22日基発安化発第062201号「建材中の石綿含有率の分析法について」
③JIS A 1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」の3つで、JISについては基安化発第062201号を基に、新しい知見と技術を盛り込んで平成18年3月25日に制定、公示された。

現在、石綿含有製品の含有率測定方法については、法的に決められているわけではないので、条件さえ合えば、この3つの方法どれを使ってもいいことになるが、今後JIS法が中心になっていくのではないかとと思われる。

（引用文献）
一、石綿作業主任者テキスト
二、建築物の解体等工事における石綿粉じんばく露防止マニュアル
三、石綿（アスベスト）対策
四、「建築物の解体・改修工事における浮遊粉じん中の石綿濃度測定」研修会資料
（社）日本作業環境測定協会

第5回

長環協ゴルフコンペ開催

総務部会

晩秋のリゾート地、軽井沢の中軽井沢カントリークラブで週末が良いのではないかと
の意見があり下記のように
開催され、又、長野県労働基
準協会連合会松本測定所
長杉崎勝明さんが優勝カッ
プ(協会長杯)を手にされま
したが、初参加された長野
市薬剤師会武田淳志さんの
GROSS-85と勝者より
10ストローク上回るといっ
活躍を振り切つて、運も味方
につけての優勝でありまし
た。
今回は、2組7名のエン
トリーと少数参加でありま
した。良い自然環境の中、協
会長カッパを手中に収める
べく各選手が鎬を削り合
いました。
回を重ねるたびに競技レ
ベルも上がってきており次
回の開催が楽しみになつて
きました。

- ◆開催日／平成17年10月29日(土曜日)
- ◆会場／中軽井沢カントリークラブ
- ◆時間／8時45分スタート
- ◆競技方法／18ホール
(INコース、OUTコース
新ペリア)
- ◆費用／プレー・飲食費は各自負担

当日は落着いた良い
コースとまずまずの天
候に恵まれての競技で
したが開催時期が悪
かったのか、参加者が
少なくやや寂しさも
感じられましたので次
回は多数の参加があ
る様にと計画します
ので日頃の練習に力
を入れて待つていて下
さい。



第5回上位三者成績結果

順位	氏名・所属	OUT	IN	計	HC	NET	備考
優勝	杉崎勝明(労・基・連合会)	45	50	95	22.8	72.2	
準優勝	武田淳志(長野市薬剤師会)	40	45	85	12.0	73.0	BG
三位	加藤一郎(環境未来)	55	55	110	33.6	76.4	



ゴルフのマナー・エチケット

第5回優勝

(社)長野県労働基準協会連合会 松本測定所 杉崎勝明



最近、ゴルフ番組を見て気がついたのですがいろいろな服を着てゴルフしているんですね。私がゴルフを始めた頃は、とにかく襟付きの服でないと
いけないと言われ、ポロシャツの人ばかりでした。

「最近は無襟の服でもゴルフしていいんだね？」とうちの奥さんに話すと「あれは縦襟って言うんだよ」って言われました。

縦襟もハイネックもとっくりもよく区別が判らない私ですが、以前に藍ちゃんのヘソ出しが話題になった時それは問題ないかなと思いましたが、でも、練習場でおじさんがヘソだしスイングをしているのを見てそれは無いよねと思ったのは私だけかなって話はこの位にして。

「第5回長環協ゴルフ大会」優勝させていただきありがとうございました。ご一緒させていただいた勝野社長、武田さん、加藤さん、楽しいラウンドありがとうございました。

景品もとても素晴らしい物をいただき松本測定所の忘年会で飲ませていただきました。

結局、襟やヘソをどうすればいいのかよく判りませんが、マナーとかエチケットは周りの空気を読んで、一緒にプレーする人たちへの気配りをしなさいってことですかね。



研究から仕事へ

環境分析の業務についてから一年が過ぎました。現在は試験室での分析と現場でのサンプリング等を担当しています。

大学受験の頃から「環境に直接関わる理系の仕事」に就きたい、と思っていました。将来の方向を決めていたことで学生時代に何をすべきかが分かりやすくなりました。理系の大学に入り、そこで興味のあった分析化学研究室に属しました。最前線の研究を通して基礎を学び、勉強すべき資格もいくつか合格できました。

そして、すべきことが研究から仕事に移りました。机の上で学んだことが、どんどん現実と

**わが社の
ニューフェイス**

第4回

(株)公害技術センター
松本支店 南澤一慶さん



なる喜びがありました。しかし、知らされるのは研究や勉強との違いです。特に大きな違いは、仕事が自分の生きる手段となったことです。真剣にやらざるをえませんし、そのことで、自分を支えてきてくれた方の恩をよつと感じることができました。

環境分析という自分の興味ある分野の仕事を真剣にすることで、これからもたくさん仕事を学び取っていきたいと思います。

昭和40年代は日本の高度成長に伴って環境汚染、公害問題が発生し、それへの対策として公害防止法が制定されました。

このような時代の要請により(社)長野市薬剤師会では、薬剤師の職能を地域社会に環境検査の分野で奉仕すべく、検査センターを昭和50年に設立しました。

時代の経過とともに、いわゆる公害問題から、

当センターでは、それに伴い種々の高度な分析機器の導入、職員の検査技術向上のための研修の強化を行い、常に「正確さ」を基本に業務

長野市
事業所訪問
第4回
**社団法人長野市薬剤師会
検査センター**

昭和40年代は日本の高度成長に伴って環境汚染、公害問題が発生し、それへの対策として公害防止法が制定されました。

このような時代の要請により(社)長野市薬剤師会では、薬剤師の職能を地域社会に環境検査の分野で奉仕すべく、検査センターを昭和50年に設立しました。

時代の経過とともに、いわゆる公害問題から、

を続けてきました。21世紀をむかえ、環境保全の問題は多様化してきています。

当センターは豊富な経験と確かな技術を生かし、環境汚染防止のために必要な分析調査を通じ、地域の環境衛生、公衆衛生の向上のため努力していきます。



私の趣味自慢

環境未来株式会社

西堀和宏さん

私が、ラグビーと出会ったのは高校一年の時です。クラブ紹介で同好会となっていた事もあり、気軽に仮入部したのが運の尽きで、前年の大会での成績が認められて、私が入部したときには正式に部に昇格してしまいました。それから三年間は勢いで全国大会を目指す(目指すのは自由です。)辛く厳しい日々が続いたのでした。結局、大学入学後もラグビーを続け、社会人になってやっとラグビーとは縁が切れたかと思っていました。

しかし、それから十数年が経過し、長女が一年生になったある日、三郷のラグビースクールの存在を知り、子供が入団することになったのが縁で、私もコーチとして参加させていただくことになりました。

チームのコーチ陣は、半数以上が子供がスクールに入っている未経験の方がほとんどで、私は、経験者と言うことで重宝がられ、いい気になっていたので、未経験のコーチたちの熱心さと言ったら半端ではありませんでした。ルールや練習方法などについて大



変良く勉強されていて、昔の遺産でコーチを引き受けた私など足元にも及びません。日々勉強の毎日です。

子供達のおかげで、今では大変楽しくラグビーをすることができるようになりました。コーチを始めて四年が経ち、低学年だった子供達も、六年生になり、当時から考えられないような成長振りを見ると、大変頼もしく感じます。

ラグビーのおかげで、アイロンで地元知り合いのいなかつた私を仲間として受け入れていただき、また子供達と、ラグビーを通じてすばらしい経験をしています。

三郷ラグビースクールでは常時スクール生を募集しています。大人のチームもありますので興味を持たれた方は是非ご連絡ください。

新規会員ご紹介

株式会社 エスコ

このたび長野県環境測定分析協会にお世話になります株式会社エスコです。平成10年頃までは前身の協会時に所属しておりましたが、今回は再びお仲間に参加させて頂きます。

当社は平成7年2月に農業系統メーカーである八洲化学工業株式会社(現：㈱協友アグリ)の子会社として研究所部門の残留農薬研究室と安全性評価研究室などを独立し分社化して発足しました。現在は農産物の農薬残留分析・安全性検査部門と農薬モニタリング調査部門などを行う分析事業部と環境アセスメント・環境分析部門と環境生物影響試験(農水省GLP試験適合施設)部門からなる環境事業部となり、さらにそれぞれの事業部から独立した信頼性保証室(QA)から組織されています。

当社の特徴として環境計量証明事業のみならず異なる他分野の業務を行っており、分析事業部では農産物のポジティブリスト制度の導入に伴い800成分農薬の多成分分析の対応や環境動態評価のための微量分析が求められています。環境事業部では環境基準の見直し



〒381-0006 長野市富竹173-2
TEL.026-296-8249

や欧州規制などの対応の他に埋設農薬などの土壌環境調査などを得意としており環境生物影響試験では農薬取締法及び水質汚濁防止法の見直しに伴う生物影響評価試験の対応に追われています。したがって受託事業先は全農系統JAや農業メーカー及び特に環境配慮に積極的な外資系医薬農薬メーカーなどが多く、近年では農林水産省・環境省・文部科学省などのプロジェクト事業にも積極的に参加し大きな成果を上げています。また学会や研究会などへの発表や参加なども大きな教育訓練の場として重要な位置づけています。

今後も農薬残留分析・環境動態・生物影響評価の3部門を柱とした事業展開を図る事を考えており特色ある企業として邁進してゆく所存でありますので、今後も協会会員の皆様方のご指導を賜りたく宜しくお願い致します。

編集後記

長野県環境測定分析協会誌「ナチュラル」4号を発刊することができました。

偏に協会員のご支援ご協力によるものと、御礼申し上げます。

日本経済も自動車産業界など一部では順調な業況ですが、改革の嵐のもとで市場原理と自由競争が吹きまくり、一部の勝者と多くの敗者の二極化傾向にますます弾みがついているように思われます。

ダイオキシンも計量証明事業のビジネスチャンスと百五十社が機器を導入し三十社が他業種から参入してきましたが、今では多くの企業が赤字で撤退を余儀なくされています。昨年熱かったアスベストも昨年の暮れでピークとなり、はたして今後どのように推移するのでしょうか。

大雪に見舞われ雪解けの遅れている信州ですが、春の訪れと共にこぞって草木は芽を吹いています。ゴールデンウィーク中の飯山の関田山系麓では、まだ一面に厚く残っている雪の上で、オオヤマザクラは満開に咲いていました。

一日も早く信州の環境計量業界にも春が来ることを願ってやみません。

発行 長野県環境測定分析協会
事務局
〒381-0003
長野県松本市大字高島五五二の二六六
環境技術センター
TEL.0263-271-1066

編集 広報部
〒381-0003
長野県長野市若原甲1百七番二〇号
株式会社技術センター
TEL.0261-227-1488

制作 副会長 小林 孝一(日本フレックシブル) 部長 久米末吉(勸中部公衆衛生研究所) 部員 川井 徹哉(環境未来) 有限会社 スクオア・スペース
〒381-0003
長野県長野市中御所1千百十三番三号
TEL.0261-227-0001
担当 酒井 宏